

おっこだね!

2023年(令和5年)2月15日

発行:中部地域振興課

ちゅーぶ

〒720-0812 福山市霞町一丁目10番1号

TEL084(932)7265 Fax084(928)8609

tyuubu-chiikishinkou@city.fukuyama.hiroshima.jp



人権・社会教育活動事業

ハートフルステージ 2022

=パネルディスカッション=

「今、子どもたちは・・・」

～子どもたちの心が見えていますか～

1月28日(土)14時から、大変寒い中、新涯小学校体育館で「ハートフルステージ2022」を開催しました。コロナ禍により2度の中止を経ての開催になりました。



コーディネーターに福山市教育アドバイザーの石田孝志さん、パネラーに新涯小学校校長の池田明子さん、誠之中学校校長の羽原靖明さん、新涯学区まちづくり推進委員会委員長の倉田秀孝さん、民生児童委員協議会主任児童委員の藤田久子さんの5人でパネルディスカッションを行いました。

小学校の池田校長からは、学校に来づらい子どもが安心して過ごせるよう校内フリースクールがあることや、ボランティア部や図書委員の活動等が紹介されました。中学校の羽原校長は、コロナ禍により子どもに元気がなくなってしまった。2年ぶりに文化祭を開催し、3年生を中心に子どもたち自身で考え実施し大変盛り上がった。子どもたちが元気に活動できる学校に戻していきたいと話されました。

学区まちづくり委員長の倉田さんは長年の保護司の経験から、子どもから教えられた事がたくさんある。目線を合わせて話をする事が大切と話され、主任児童委員の藤田さんは、地域のおとなの気づきで母親が安心して仕事ができる環境を整えることができた事例を話されました。

コーディネーターの石田さんは、地域で子どもに目を向けているおとながいるのはとても心強いこと。子どもが困った時にひとりで抱え込まず、誰か話せるおとながいること、あてになるおとながいることが地域の力。違いを認め、目線を合わせて話をする、ジャッジ(判断)をしないことが大切。コロナ禍の3年間を失われた3年間にはいけない。我慢した分より大きくジャンプできるはず、と締めくくりました。

参加者からは、「地域での参考になる身近な話だった。」「子どもに対する向き合い方が分かったような気がする。」「それぞれの価値観を認めることの、重要性を認識できた。」「改めて声掛け、あいさつがとても大切だと感じた。」などの多くの感想が寄せられました。



= 人権は 一人ひとりの 宝物 =



カラフル絵の具箱!



東交流館 初めての終活講座 & Piano Live



とき 3月8日(水)
10:00~11:30

ところ 東交流館

講師 佐藤 雄一朗さん
(ファイナンシャルプランナー)

定員 20人(事前申込必要)

*問合せ・申込み 東交流館

Tel084-925-4265

*検温・マスクの着用をお願いします。

深津コミュニティセンター わくわくコムクラフ ~作って遊ぼう~ たこ作りを楽しもう!

とき 2月25日(土)
10:00~11:30

ところ 深津コミュニティセンター
中溝公園

講師 井上 聖文さん

定員 10人(事前申込必要)

持参物 はさみ・セロテープ(あれば)
水筒

申込み 2月22日(水)まで

*問合せ・申込み 深津コミュニティセンター

Tel084-923-8103

*検温・マスクの着用をお願いします。

国際母語デー

ちゅー吉さんのつぶやき。



世界中にどのくらいの言語があるか知っていますか? 現在把握されているだけで 7,000以上の言語が存在すると言われています。

2月21日は「国際母語デー」です。1999年のユネスコ総会で、「人類が使う、全ての言語の保存・保護を推進する」ことを目的に定められました。

母語の定義は幼児期に自然に習得する言語です。

過去の植民地支配により、母語を奪われた人が多くいます。支配国は言語を強要し、もともとその地域にあった文化を取り上げ、言語を意図的に消滅させようとしてきました。

ルーツが異なる人々が生きる現代、言語の数だけ異なった文化が存在します。自分の母語以外の言葉を知るとは、他者の文化を知ることにつながります。多様性を考えるきっかけのひとつとして言語や母語について調べてみませんか。



視覚障がい等の理由がある人のために、営利目的を除き「録音」「点字」「拡大」などを認めます。